



ホームページが新しくなりました。QRコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和4年度 附属小学校だより

スマイル²ふぞく



第6号 令和4年10月28日（金） 校長 古野 祐一

北斗の丘・校舎周辺が美しい！

10月14日（金）・15日（土）の二日間、保健体育部と育友会本部の皆様によって、「北斗の丘・校舎周辺の清掃活動」が昨年度に続いて実施されました。

二日間で総勢361名の参加者がありました。土曜日には親子で参加したところもあり、一緒に汗を流して働く姿に、こうして学校を大切に作る心が育つのだと嬉しい気持ちになりました。

1時間の作業を終え、「あっという間で、まだ続けて草刈りしたかった」と、暑い日差しを浴びながらも笑顔で、こうした嬉しいお言葉を掛けてくださる附属の保護者に頭が下がる思いでした。

昨年の6年生から始まった「北斗の丘再生計画」。今年度の6年生が受け継ぎ、更に具体的な計画へと発展しています。自分たちが卒業しても下級生が楽しそうに遊ぶ姿を想像して、様々なプランの提案がありました。育友会本部の皆様と相談しつつ、実現に向け準備を進めています。遊具設置や修理、草刈りや害虫駆除といった提案は、全校児童にアンケートをとった結果から6年生が考え抜いたプランになっています。少人数に分かれて提案されたプレゼン映像を皆様に見ていただたく準備も進めています。

国語や算数など日頃の学習で培った考える力を駆使して、現実の社会に働きかける子供たちの学びの集大成に御期待ください。



多くの皆様に参集いただきました。



北斗の丘で刈り取った雑草の山。



ペットボトルのキャップ回収ボックス。



保健室にいただいた沢山のミニ保冷剤。

卒業しても心強いサポーターに感謝！

先日、何とも嬉しい出来事がありました。

既に3人の子供が附属小を卒業したお母さんです。1年生玄関を入ったところに設置しているペットボトルキャップ等のリサイクル品を持ってきてくださいました。

一人目の時に集会室のカーペットが新しくなったこと、二人目の子が病気をした際に先生たちが親身になって関わってくれたことなどを、懐かしそうに話してくださいました。家が近所で、登下校の子供たちを見かける度に、我が子の時代を思い出し、「頑張ってるね。」と応援しながら見守りをしているとのこと。帰り際には、保健室用にと家庭で集めた複数のミニ保冷剤も寄付してくださいました。我が子が卒業しても何か手伝えることがあればと、今も学校を支えるサポーターでいてくださる。感謝の思いでいっぱいになりました。

こうした思いに応えるためにも、子供を中心に据えたスマイル附属にしていくと、心新たに2学期をスタートしたところです。

※裏面に続きます！

笑顔の支え

先日、東京から「ワンルームオーケストラ」を迎え、3年ぶりに芸術鑑賞会を開催しました。子どもたちはそれぞれの感性を働かせながらプロの演奏を楽しむことができました。4月から担当の平田教諭が、「子どもに本物の体験を」と現在の社会情勢の中でも、どうにか開催できないか思索してきました。

この芸術鑑賞会、これまでも様々な分野のアーティストをお招きし、北斗の子の心に届く鑑賞会を行ってきました。本校図画工作部・音楽部が大切にしている、人生を豊かにする感性を育むための教育です。幼少の頃から「よいもの」に触れる経験は、心の栄養となり、夢や憧れにつながります。海外では、健康回復を促進する治療の一環として、美術館鑑賞の処方があるほど、よいものに触れることと心の関係は大きいそうです。

教頭 橋田 晶拓

「よいもの」が心に及ぼすもの

さて、「よいもの」が心に及ぼす影響は、芸術だけではありません。

本年度、本校の重点目標として、ルールとマナーを大切にする実行力向上を挙げています。実行力を発揮する場の一つとして、登下校で利用する公共交通機関、バスマナーがあります。ここには、まだまだ課題があります。職員の見守り、マナーの意義を伝えることに加え、具体の良い姿を示していく必要があります。そのモデルとなるのが、高学年の姿です。特に最高学年である6年生は、伝統である6年学習があります。北斗の憧れとなり、学校を牽引していかなければなりません。その姿が、「よいもの」となり、学校全体のマナーの向上につながります。職員一同気を引き締め直し、北斗の子の心根を育ててまいります。

教頭 橋田 晶拓

北斗の学び

学力の本質を見据えて

「自分の主張をスラスラと述べる人」や「考えを分かりやすく説明できる人」は、一般的に「頭がいい」「学力が高い」と言われます。SNSやメタバースといった様々なテクノロジーが発達するであろう未来において、円滑で豊かなコミュニケーションは、重要な意味をもつと私は考えています。そんなコミュニケーションに、必ず持ち合わせていなければならないもの。それは「相手意識」です。言葉は巧みでも、それが嘘で塗り固められていたり、自分にとって都合がよく、相手を悲しませる言葉を発したりする人は、決して学力が高いとは言えません。そもそも学力とは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」だけでなく「学びに向かう力・人間性等」が要素だからです。ペーパーテストの点数だけでなく、「自分を律する力」や「よりよい人間関係を作ろうとする態度」が備わることが必要なのです。

各学級の学びの中では、友達の間を見つめながら話を聞いたり、皆の意見を尊重しながら考えを述べたりする子どもの姿が見られます。30日の学校公開では、子どもと教師が学力の本質を見据えて創る学びを御覧いただけると幸いです。

主幹教諭 吉田 公悦

潜入！附属小リアルスコープ

職員室ビーチフラッグ

職員室には、2機の電話があります。その電話が鳴った瞬間、右腕の筋肉が瞬時に反応し、受話器に手が伸びます。しかし、いつも僅差ながら、隣の吉田主幹が電話を受けるのです。まるで、砂浜で行われるビーチフラッグさながらの光景が日々繰り広げられています。この「職員室ビーチフラッグ」、私の勝率は3～4割といったところでしょう。

さて、附属小には、外部から様々な電話が入ります。他校や教育委員会からの授業・研究・研修に関するものや、出前講義の依頼などが主です。しかし時折、地域の方々からのお電話もあります。子どもたちの校外での様子についての内容です。もちろん嬉しい話もあるのですが、中には指導を見つめ直すべき話もあります。その多くは、バスの中や歩行時のマナーに関するものです。そのようなお話を受ける度、指導の至らなさを反省すると同時に、子どもたちが地域からも育てていただいているのだと改めて実感するのです。

制服を着て登下校する北斗の子。周りに気持ちの良い学校だと思っていただけるよう、社会性についても高め続けてまいります。

教務主任 才木 崇史